

競 技 注 意 事 項

本大会は、2022年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会の申し合わせ事項によって行う。

1. ウォーミングアップ・練習について

ウォーミングアップや練習は、すべて競技場北側の多目的グラウンド（半面）か全天候走路を使用すること。また、1日目は8:30、2日目は8:45までは競技場内での練習も可能とする。投てき種目においては、砲丸・円盤・メディシンボール等を用いた練習はいかなる場所においても認めない。

2. 招集について

ア. 競技者の招集所は、競技場内の室内練習場に設ける。

イ. 招集時はマスクを着用すること。

ウ. 招集開始時刻はその競技の開始時刻を基準とし、下記のように定める。

トラック競技	1組～3組	30分前に開始し、20分前に終了する。
	4組～6組	20分前に開始し、10分前に終了する。
	7組～	10分前に開始し、競技開始時刻に終了する。
フィールド競技	40分前に開始し30分前に終了する。	

エ. 招集の手順

- ① 競技者は招集開始時刻までに招集所に集合し、点呼を受ける。その際、係員にナンバーカードとシューズの確認を受けたのち、係員の誘導に従って入場する。
- ② 四種競技出場者は最初の種目のみ招集所でエの①に従い競技者係の点呼を受ける。以降は現地招集とする。完了時刻はトラック競技10分前、フィールド競技20分前とする。アップシューズで出場する種目がある場合は、最初の招集の際にアップシューズについても確認を受けること。

3. 競技について

ア. 危険防止のため、各走者はフィニッシュ後レーンに沿って曲走路を走る。

イ. 本大会のトラック競技はすべて電気計時とする。したがって、トラック競技出場者は右腰やや後方に、主催者が用意した腰ナンバーカードをつけること。フィニッシュ後は腰ナンバーカードを役員に必ず返却すること。

ウ. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順とする。決勝の組み合わせは、番組編成員により公正に抽選のうえ決定する。編成された組み合わせは記録表示板に掲示する。

エ. 決勝進出における+αは100分の1秒単位とする。同タイムが多くレーンが不足する場合は1000分の1秒まで読み取り、進出者を決定する。ただし、同記録者がありレーン数が不足する場合は、本人の抽選により決定する。

オ. ナンバーカード（横22～24cm×縦16～20cm）は個人登録番号とし、太さ2cm程度の明瞭な文字で書いてユニフォームの背と胸に付けること（跳躍競技は背または胸いずれか一方でよい）。

カ. リレー競走について

- ① リレー競走については、競技規則TR24.10を厳守すること。（オーダーの編成は「リレー競走の2008ルール変更に伴う注意事項」を厳守すること。）
- ② 同一チームの4名は同一のユニフォームを着用することが望ましい。
- ③ 各走者は1カ所にかぎり粘着テープをマーカーとして使用できる。
（テープの大きさは50mm×400mm以内）
- ④ 各走者はバトンの受け渡しを終えた後は、他の競技者の邪魔にならないようレーン内にとどまること。
- ⑤ リレーオーダー用紙について、予選はオーダー用紙を学校受付時に受け取り、1組目招集完了時刻1時間前までに競技者係に1部提出すること。決勝はオーダーに変更がある場合のみ、招集完了時刻1時間前までに競技者係に1部提出すること。第2日目に行われるリレー種目のオーダー用紙の提出はできるかぎり第1日目終了までに提出されたい（ただし、13:30まで）。
- ⑥ 共通リレーと低学年リレーは兼ねて出場することができない。

キ. 「不適切なスタート動作（不適切行為）」があった場合は、グリーンカードによる注意を与える。また、同一競技者による注意が多発した場合は、審判長等により警告を与えることがある（競技規則TR16.5.3）。同じ競技者が同じレースの中で2度の警告があった場合は、不正スタートとみなす。不正スタートを行った競技者は1回で失格となる（ただし、混成競技については、不正スタート2回目以降は誰でも失格の対象となるルールを適用する）。

ク. 競技規則TR16.5.3『「位置について（on your marks）」の合図の後、ある競技者が音声その他の方法で他の競技者をじゃまするような場合は不正スタートとみなされる』により、スターターの「on your marks」の合図で「お願いします」等のかけ声はかけないこと。

ケ. 競技規則TR5.2の改訂に伴い、ソールの厚さが規定以上のシューズでは競技に出場できない。シューズは招集時に確認し、必要に応じて計測する。

- コ. 皇子山陸上競技場ではスパイクのニードルピンが使用禁止のため、付け替えなければ競技に出場できない。ただし、固定されているものは例外とする。
- サ. すべてのラウンド（予選を含む）において競技を棄権する場合は、競技者係にて棄権届を受け取り、必要事項を記入のうえ、競技者係に提出すること。
- シ. 円盤投については、男子20m、女子16mのセレクションラインを設ける。

4. バーの上げ方

	種目	練習	上げ方
男	走高跳	1.45/1.60	1.50-1.55-1.60・・・1.70-1.73 以上3cm
	四種走高跳	1.35/1.50	1.40-1.45-1.50・・・1.65-1.68 以上3cm
	棒高跳	2.30/2.80	2.40-2.50-2.60-2.70-2.80-2.90 以上10cm
女	走高跳	1.20/1.35	1.25-1.30-1.35・・・1.45-1.48 以上3cm
	四種走高跳	1.15/1.30	1.20-1.25・・・1.40-1.43-1.46 以上3cm

※練習は上記のように二段階で実施するので、どちらかを選択すること。

※第1位が同成績の場合や、近畿大会出場者選出のための決定戦は、その同成績の競技者全員が成功した次の高さで試技を行うこととし、その後のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。

5. 表彰

- ア. 決勝において第3位までに入賞した選手は、決勝結果の通告後すみやかに表彰席に集合すること。また、表彰後、近畿総体への出場手続きをするため役員室に来ること。
- イ. 学校対抗における団体表彰は、男子総合・女子総合・男女総合とも第3位まで行う。
- ウ. 学校対抗得点は各種目1位8点、2位7点、・・・、8位1点とする。

6. 救護医療について

出場選手の競技中の疾病および傷害については、応急の処置は行うがそれ以後の責任は一切負わない。また、大会中の疾病および傷害については、必ず総務に届け出ること。

7. その他

- ア. 芝生スタンド第1曲走路の100mゴール側とメインスタンド中央の一部分に設置する保護者観覧エリアのみ保護者の入場を許可する。競技場内への入場できるのは競技者、補助員、競技役員、引率者の必要最低限の人数とし、ADカードによる入場制限を行う。
- イ. 競技場での競技者の移動はスタンド外を利用すること。特に本部前の通行およびメインスタンド下は立ち入り禁止とする。また、競技者はトランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内で使用しないこと（競技規則TR6.3により競技者への助力とみなされ失格となる場合がある）。
- ウ. 毎朝、各校で参加者全員の健康カードを取りまとめ、学校受付において「チェックシート」を提出すること。
- エ. テントは各校指定された場所に設置すること。ただし、芝生スタンドにおいて、グラウンドシート等を地面に敷くこと、テントひもをバックフェンスにくくるとは禁止する。また、バックフェンスへの横断幕の設置も禁止する。
- オ. 各校テント内や競技中の待機時間などは、他者との身体的距離を確保できない場合はマスクを着用すること。また、声を出しての応援は禁止する。食事に関しても黙食を徹底する。さらに、スタンド等で他校との接触をしないこと。
- カ. 参加者は設置してあるアルコールを用いて、適時消毒を行うなど感染予防に努めること。また、競技終了後は必ず消毒を行うこと。
- キ. 更衣室の利用については、更衣のみとする。必ずマスクを着用し、短時間での利用を徹底すること。出入口に設置してあるアルコールで消毒すること。
- ク. 助走マークやリレーマークなどで使用したテープは、はがして持ち帰ること。
- ケ. 貴重品等の管理は各校で十分注意すること。
- コ. 熱中症には十分注意すること。暑さ指数（WBGT）が31を超えた場合は大会本部で協議し、大会を中断することがある。
- サ. 競技開始前の競技場でのウォーミングアップは1・2レーンを周回レーン、3～8レーンを流し・ダッシュレーン（ただしメインストレートの7・8レーンはハードル専用レーン）とする。また、リレーのバトン練習はバックストレートのみとする。
- シ. 全日本中学校陸上競技選手権大会、近畿総合体育大会の出場資格を得た学校の顧問1名は大会終了後に、出場手続き等の説明を行うので、役員室へ速やかに集合すること。